



3.11から12年。
パートナー団体から「東北の今」を
伝える写真が届きました。



①②宮城県気仙沼市舞根地区。津波が押し寄せた湿地は保全され環境教育のフィールドに◎森は海の恋人 ③宮城県石巻市で続く交流イベント◎やっぺす ④奇跡の一本松の前を歩き、みんなで元気に!◎りくカフェ ⑤岩手県大船渡市に建てられた防災観光交流センターで本のイベントを開催◎おはなしころりん

CONTENTS

被災地を支援する

p2-3・・・東日本大震災
p4・・・東北から九州まで

緊急即応体制を創る

p5・・・医療救助訓練に参加

アジアに展開する

p6-7・・・10周年フォーラム開催
トルコ地震緊急支援



— 東日本大震災から12年 —

**ハードからハートへ
住民目線の教訓を伝え命を守る**

2011年3月11日の東日本大震災から12年。東北の被災地では、防潮堤や災害公営住宅などハード面の整備が進み、震災の教訓を伝える伝承施設も次々に建設されています。他方、被災者主体の視点に立ったソフト面の取り組みは見えづらく、「復興」の成果を多角的にとらえる視点が大切です。

今号のニュースレターでは、Civic Forceが今、力を入れている「記憶の伝承」の取り組みについてお伝えします。今後予想される南海トラフ地震のような巨大災害では一人ひとりに命を守る行動が求められますが、東日本大震災や各地で相次ぐ災害を振り返り、住民目線の「教訓」を伝えていく活動が重要です。災害の多い日本に「減災思考」を根付かせ、命を守る真の「防災」につなげていく取り組みを進めています。



1

東日本大震災から12年 “語り続ける人”を支える「記憶の伝承」事業

3.11から12年。

Civic Forceは今、「コミュニティ再生」「福島・保養」「記憶の伝承」の3テーマを軸に、被災した地域の復興をサポートする独自プログラム「NPOパートナー協働事業」を実施しています。このうち「記憶の伝承」は、震災の経験を後世に伝え、災害に備える社会の実現を目指す活動です。



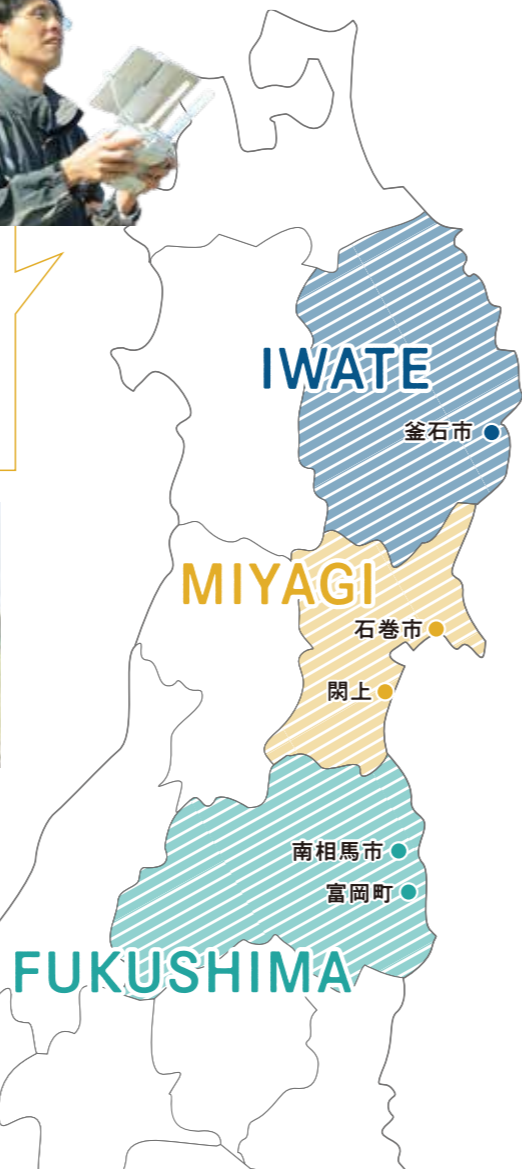
過去の教訓を未来に生かすべく奮闘する「NPOパートナー」の声をお届けします。

宮城 3.11メモリアルネットワーク “命を守る力”を全国へ

中川 政治さん



東北3県を中心に震災伝承の連携組織としての役割を担っています。かたりべなど伝承の活動が防災の行動を促す効果を検証し可視化することで、伝承の社会的価値を示し、災害から命が守られる社会の実現を目指します。「同じ悲しみを繰り返さないように」と活動を続けるかたりべさんのつながりを広げ、次の災害から命を守る力を全国に届けられるよう、サポートしています。



福島 富岡町3.11を語る会 失われたつながりを取り戻す「伝承」

原発事故で一時、町民全員が避難を余儀なくされた富岡町で、かたりべ教室などを続けています。震災の現状と課題を語り伝え、一緒に考え行動する人を増やしていく取り組みは、失った「人のつながり」を取り戻すこと。震災の伝承は、単なる体験談ではなく、「人が生きる上で失ってはならないこと」を語り伝えていくものです。



青木 淑子さん



3/31 まで クラウドファンディング実施中

ハードからハートへ 災害大国ニッポンに“伝承”の力を

Civic Forceが進めてきた「記憶の伝承」の取り組みとは、震災の経験を後世に伝え、災害に備える社会の実現を目指す活動です。また、「伝える」という行為は、他者へ働きかけるだけでなく、被災者自身の心の傷の回復にも効果があるとされています。

しかし、コロナ禍で被災地を訪れる人が減少し、被災地全域の伝承活動団体が今、岐路を迎えています。過去の教訓を未来に生かし、故郷に戻った人、そして故郷に戻りたくても戻れない人、双方の思いに寄り添いながら、Civic Forceは伝承活動を応援しています。皆様のご支援をお願いいたします。

応援してください！



岩手 白菊実行委員会 追悼の花火「白菊」

「白菊」とは、新潟県長岡市の花火師がシベリア抑留で命を落とした戦友を弔うために作った花火。長岡空襲の日や終戦の日などに各地で打ち上げられ、2020年3月11日から毎年、津波で甚大な被害を受けた岩手県釜石市鶴住居(うのすまい)町でも追悼の花火をあげています。



岩崎 昭子さん

福島 OSPA(オスバ) 演劇で「心の復興」を

劇作家・小説家の柳美里さんが代表理事を務めるOSPA(Odaka Society for the Promotion of the Arts)は、南相馬市小高区で劇場「La MaMa ODAKA」を運営し、演劇を通じて地域住民の「心の復興」を後押ししています。



宮城 閑上の記憶 柳田邦男さん講演 「悲しみでつながる」

津波で多くの人が犠牲になった名取市の閑上(ゆりあげ)で、津波復興祈念資料館「閑上の記憶」を運営。震災学習プログラムや担い手育成の取り組みを続け、2023年2月には作家・柳田邦男氏の講演会「悲しみでつながる」を開催しました。そして、今年も3月11日に「追悼のつどい」を開催しました。

実施中プロジェクト 2023年3月現在

宮城 TEDIC(テディック) 子どものための 秘密基地「タノマ」

子どもや若者の孤立を減らすため、地域の多様な組織や人を巻き込みながら「秘密基地・タノマ」を運営。タノマとは「楽しい間」。子どもも大人も楽しみながら相互にケアし合える地域づくりを目指しています。

岩手 こそだてシップ 「乳幼児の防災」を 当たり前

第1期に続き、産後ケアや赤ちゃんとの関わり方を学ぶ機会を提供。防災講話や被災体験の記録の公開を通じて、東日本大震災の教訓を生かした「乳幼児の防災」を地域に定着させる取り組みにも力を入れています。

福島 しんせい 共生社会を目指す「山の学校」

NPOパートナー協働事業の第1期で整備した福祉農園内に、共生社会と自然環境について学ぶ「山の学校」を開設。障がい者をはじめ農家や学生、研究者、企業人など多様な人が参加し、福島の実験を教訓に豊かな共生社会を目指しています。



2022年8月豪雨

新潟 都岐沙羅パートナーズセンター 親子向けの交流相談会を開催

新潟県村上市の子育て支援団体「村上ohanaネット」と連携して、2022年12月から2023年1月、浸水被害を受けた3地区で計7回、親子向けの相談会を開催。看護師や公認心理士などの専門家や地域の食堂と連携し、楽しく交流しながら親子のケアを続けています。「久しぶりに子どもを連れてこられてよかった」と話す参加者もいました。



2020年夏豪雨

熱海 佐賀 車両を貸し出し中

静岡県熱海市の土石流災害の被災地で復興支援活動に取り組む「テンカラセン」と、佐賀県の豪雨で被害を受けた児童支援事業所「ガラパゴス」に、車両を貸与しています。

子どもたちを送迎中!



2019年台風19号

長野 しのの長沼・お屋敷保存会 コミュニティ再生の場「米澤邸」

2019年の台風19号で被災した長野市長沼地区の古民家「米澤邸」を修復再建し、地域のコミュニティ再生の場として活用するプロジェクトが進行中。全国から訪れた災害ボランティアの拠点・ランドマークとして、さまざまな伝統的な文化行事や学びの場をつくっています。

Civic Forceの協働事業（～2022年8月）では、ホームページ制作など情報発信の体制を整備し、修復活動や人集め、資金調達に向けた準備を行いました。



コロナウイルス感染症対策

福島 カーロふくしま 子どもたちが 安心して学べる場を

小中学生が安心して学べる場を提供する「カーロでスタディ」を毎月2回開催。教員を目指す学生の学びの場にもなっています。遠方で足を運べない子どもたちに向けた「出張版カーロでスタディ」も実施。



宮城 World Open Heart 相談対応マニュアル 作成に向けて

2020年9月からコロナ禍で差別を受けた感染者やその家族をケアするためのホットラインを運営。現在、「災害等緊急時の相談対応マニュアル」（仮題）の作成に向けて実態調査を続けています。

岩手 おはなしころりん おはなしサロン @交流図書室

コロナ対策を万全にとった図書室で「おはなしサロン」を開催。本を通じた世代間交流によって安心して過ごせる居場所をつくり、住民の不安や孤立感を減らす取り組みを続けています。



緊急即応体制を創る

大規模災害時の緊急即応体制を整えるためのさまざまな取り組みを行っています。メディア掲載や協力企業・団体の皆様の関連情報もお知らせします。

選手会ファンド お礼とご報告

Civic Forceと日本プロ野球選手会が共同で運営する「日本プロ野球選手会災害支援基金（通称：選手会ファンド）」では、昨年12月12日から51日間にわたり、クラウドファンディングを実施し、総額1,249,000円のご寄付を頂戴しました。また、12月から1月まで4回にわたって実施したチャリティーオークションでは、選手の皆さんのご協力を通じて、総額6,295,565円のご寄付につながりました。皆様からのご支援は、災害支援活動に役立っています。



韓国や佐賀で講演

- 佐賀** 22.11.25 防災クイズや被災地支援活動の紹介 @放課後学童クラブ
- 韓国** 22.11.29 佐賀県ふるさと納税の活用事例紹介 @ふるさと納税フォーラム
- 東京** 23.01.27 災害支援の仕組みや活動について紹介 @中野区立中野中学「総合的な学習」
- 佐賀** 23.02.24 「世界の災害支援・日本、そして佐賀の今」をテーマに講演 @協働まちづくり講座



物資の配布会を開催

2022年12月と2023年3月、Civic Forceの事務所、倉庫がある佐賀で、生活困窮者の支援などを行う連携団体へ、衣類やおむつ、マスク、アルコールジェルなどを配布しました。



ARROWS多機能連携訓練に参加

2022年12月10、11日に高知県で開催された空飛ぶ捜索医療団ARROWSの多機能連携災害時医療救助訓練に参加しました。



メディア情報

23.01.24 雑誌 トヨタ財団広報誌「JOINT（ジョイント）」
貧困や困難な状況から抜け出せる人が増えることを目指して

もっと気軽に社会貢献!

- 活動全般**
レジーナクリニック「SDGsプラン」
<https://reginaclinic.jp/sdgs/>
- ブリリアンスプラス「シークレットストーン」
<https://www.brilliance.co.jp/about/news/donation-program.html>
- ふるさと納税（佐賀県NPO支援）
<https://www.furusato-tax.jp/city/product/41001/107>
- ヘッズ「チャリティハピネスレジ袋」
<https://www.e-heads.co.jp/shop/g/CHRC-M/>
- サンナップ（アスクル限定販売）「フェーズフリー認証 紙コップ メジャーメント」
<https://askul.disclosure.site/ja/themes/103>
- 本棚お助け隊「古本チャリティ募金」
<https://hondana.biz/charity-application/>
- ECナビ「スマイルプロジェクト」
https://ecnavi.jp/smile_project/
- どんな未来がいい？
「寄付をはじめよう」キャンペーン 2023.3.1 Wed - 3.31 Fri
- バリューブックス「チャリボン」
<http://www.charibon.jp>
- 東日本大震災**
Yahoo!ネット募金
<http://donation.yahoo.co.jp/detail/3747011>

指輪の内側に
光る宝石
売上の10%を
寄付



1日33円からできること

次の大規模災害に向けて平時から備えておくために皆様の力が重要です。マンスリーサポーターとして毎月定額（1000円単位）のご寄付で支えてください（クレジットカードのみ）。また、団体活動全般へのご寄付は以下の口座で受け付けています。

- 銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964
- ゆうちょ：00140-6-361805
上記いずれも口座名義は「シヤ）シビックフォース」
- クレジットカード：HP「オンライン募金」より
<https://bokinchan3.com/civicforce/donation/bokin/page1.php>

SNSで最新情報をお届けします

シビックフォース



ニュースレターのバックナンバーはこちら▼
<https://www.civic-force.org/news/newsletter/>

メールマガジン「被災地の今を知る」登録▼
<https://www.civic-force.org/mailmagazine/index.html>

1 企業・NGO・行政が連携して被災地へ

A-PADは、2012年10月にインドネシアで開催されたアジア防災関係者会議(AMCDRR)で設立を発表。以来アジア6カ国で災害支援の官民連携プラットフォームの仕組みを構築し、近年はコロナ対応やトルコ地震でも緊急支援を行っています。

フォーラムでは、まずA-PAD理事長のカズィ・カムルズザマン氏(医師)が、10周年記念フォーラム開会の挨拶として関係者への謝辞を述べました。



2 「災害支援のハブとして」 —日本で生まれた仕組みをアジアへ

オープニングでは、「NGO/NPOの戦略的あり方を検討する会」座長の逢沢一郎衆議院議員、塩崎恭久元官房長官、アジア太平洋災害支援議員フォーラム事務局長の河野太郎衆議院議員、武井俊輔外務副大臣が登壇。A-PADは外務省からの拠出金と補助金を活用して緊急支援を実施しており、「災害支援のハブとしてアジアにイノベーションをもたらす日本発祥の取り組み」と評価されました。また、各地域のNGO、政府、企業などが連携し、国境を超えた国際災害支援協力の枠組みづくりを通じて、さらなる活躍を期待したい」と期待が寄せられました。

3 パネルトーク

「Beyond Disaster Management」

続くパネルトーク「Beyond Disaster Management～アジア太平洋を連携で進化させるために」には、A-PADの創設や発展に携わった5人が登壇。10年を振り返り、アジア太平洋地域の未来について語り合いました。



ファシリテーター
藤沢 久美氏
Kumi Fujisawa
国際社会経済研究所 理事長

村尾 信尚氏
Nobutaka Murao
関西学院大学教授

Beyond DisasterからBeyond Nationへ。平和を求める私たちの声は一つ

遠藤 和也氏
Kazuya Endo
外務省国際協力局長

A-PADのセクターを超えた連携の実践は意義深い

茶野 順子氏
Junko Chano
笹川平和財団 常務理事

フィルザン・ハシム氏
Firzan Hashim
A-PAD COO (A-PADスリランカ代表)

災害は気候変動の影響。ネットゼロ(温室効果ガス排出ゼロ)の目標に向かって連携を重ねよう

大西 健丞氏
Kensuke Onishi
A-PAD CEO

火山噴火や紛争、難民が増えている。多様な災害や人道支援にも視野を広げている

10年前に支援を決めた理由は、外からの支援と地域に精通する被災地の人々が連携することで効果的な支援が実現できるという構想。アジアの未来をつくる心意気と実践力にひかれた

4 災害マネジメントアワード

6団体・個人が受賞

記念フォーラムでは、過去10年の災害支援活動の中で被災地の復旧・復興や防災の意識向上のために尽力した団体・個人を表彰する、初の「A-PADアワード」も発表。A-PAD加盟6カ国の中から6団体・個人が選出されました。



受賞の喜びを語る川邊健太郎氏(Zホールディングス代表取締役社長Co-CEO/ヤフー取締役)

- バリ地方防災局**
「災害安全ホテル」の基準を推進し、特に2022年にバリで開催された国際会議で万全な災害対策を講じた。
- Mr. Carlo Buenafior (所属: Founder, Fleet of Hope)**
2021年の大型台風「ライ」の被災地で、被災した漁師に対して140隻の漁船を支援するなど、人々の生活再建に大きく貢献した。
- Disaster Channel.co**
災害に関する情報や知識を伝えるポータルサイトを開設し、人々の防災意識の向上や関係者のネットワーク構築に貢献した。

- News 1st**
スリランカ最大のメディアグループで、報道を通じてA-PADの支援や防災活動の普及に尽力し、災害に強い社会づくりに貢献した。
- Mr. Saber Hossain Chowdhury**
グループ企業「Kamaphuli Group」の代表として、A-PADバングラデシュと民間セクターとの連携に貢献。貧困層向けのメディカルカードの普及など。
- ヤフー株式会社**
緊急災害対応アライアンス「SEMA(シーマ)」を立ち上げ、企業の商品やサービスを災害時に活用できる仕組みを作りあげた。

5 災害マネジメント研修を実施

翌3月1-2日、東京で災害マネジメント研修を実施し、A-PAD加盟国のメンバーら約30人が参加しました。
研修初日は、過去10年の各国の災害時連携の動きをシェアするとともに、A-PADの強みや特徴を語り合い、今後の目標や具体的なアクションについて話し合いました。
2日目の午後からは有明にある防災体験学習施設「そなエリア東京」に足を運び、地震災害後の支援が少ない時間を生かす知恵を学ぶ防災体験学習ツアー「東京直下7.2hTOUR」を体験しました。



トルコ地震 緊急支援

2月6日の大規模な地震で、トルコ・シリア両国で5万4,000人以上が亡くなり、多くの方が家を失いました(2023年3月時点)。A-PADは、6日からスタッフをトルコに派遣し、緊急支援活動を行っています。

ご支援は
こちらから



トルコのNGOと捜索・救助

6～10日、A-PADと連携協定を締結するトルコのNGO「GEA(ゲア)」とともに、倒れた家屋の下敷きになっている人々の捜索・救助の活動を続けました。GEAでは41人の生存者を救出。捜索の壁と言われる72時間を超えても多くの生存者を見出し、GEAの代表は「絶望の中でも諦めない」と話してくれました。



テント110張を手配・設置

台湾の企業2社と協力し、15日、被害の大きかったアドゥヤマンに110張にテントを提供。教育研究病院を通じて、医療物資の管理倉庫として活用されているほか、トルコ首相府防災危機管理庁(AFAD)の依頼を受け、郊外の空き地に50張のテントを設置。寒い中、路上で避難生活を送る人々に活用されています。



支援が届いていない地域へ

空飛ぶ捜索医療団ARROWSの一員として、ハタイ県で物資支援の活動を継続中。支援が届いていなかった郊外の町、アルスズにも食料品と日用品(衛生用品・ベビー用品・ペットフードなど)100世帯分をパッケージにして配布しました。物資の現地調達やパッキングにあたってはトルコの皆さんが協力してくれました。

3/28(火) 災害シンポジウム2023 in 佐賀

関東大震災から100年 これからの避難生活の あり方を考える

— 被災者支援の国際基準と行政・企業・NPOの協働 —

参加
無料

第1部

13:05~ 基調講演

「緊急救援に必要な国際基準の概要」

岡野谷 純氏

特定非営利活動法人
日本ファーストエイドソサエティ 代表理事

救急蘇生法を学び広める市民団体を設立。救急法や災害時の活動者支援、心のケアなど、様々な研修プログラムを開発し、国内外で普及活動を行う。スフィア基準国際トレーナー、医学博士、救急救命士。

第2部

14:05~ パネル発表

「避難生活の環境改善アセスメント」

頼政 良太氏

被災地NGO協働センター 代表

能登半島地震被災地での足湯ボランティアを皮切りに、数々の国内の災害救援活動に従事。兵庫県立大学減災復興政策研究科で、被災者一人ひとりに寄り添う災害支援・復興支援の在り方を研究。

「在宅避難者支援の課題と企業の貢献」

石丸 博幸氏

佐賀県武雄市 総務部 防災・減災課 課長

2019年、2021年の豪雨災害時に武雄市資産活用課の課長として受援窓口を担当。非常用物資・食料等の調達、CSOとの連携などによる災害対応を経験。

「被災地支援における民間力の活用」

安田 健志氏

ヤフー株式会社
SR推進統括本部 災害支援推進室 室長

災害発生時に被災地のニーズに応じて支援物資を届ける「緊急災害対応アライアンス SEMA」事務局長。SEMAには2023年1月現在、企業71社、市民団体6団体が加盟。防災士。

第3部

15:15~ パネルディスカッション

「民間の力を活用したこれからの避難生活のあり方とは」

【モデレーター】根木佳織(Civic Force代表理事) 【パネリスト】岡野谷氏、頼政氏、石丸氏、安田氏

日時

2023.3.28(火)
13:00~16:15
(12:30受付開始)

会場

グランデはがくれ
フラワーホール
佐賀市天神2丁目1番36号

オンライン同時開催

WEB申込はこちら



会場定員：120名(先着)

来場者には

被災者支援の
ヒント集

国際基準と
熊本地震被災者
支援から学ぶ

プレゼント!